

令和6年3月作成

デジタル田園都市国家構想の実現に向けた  
**第3期 鹿追町まち・ひと・しごと創生総合戦略**  
<2024（令和6）年度～2027（令和9）年度>

鹿追町まち・ひと・しごと創生本部

## 目 次

<b>I</b>	<b>はじめに</b> .....	<b>1</b>
1	本戦略について .....	1
2	他の計画との関係 .....	1
3	対象期間 .....	2
4	策定・推進体制 .....	2
5	地域ビジョン .....	2
6	基本目標と構成 .....	2
<b>II</b>	<b>戦略の内容</b> .....	<b>4</b>
基本目標 1	産業を振興し、人材を育成するまち .....	4
戦略 1	【農業（経営・基盤整備）】基幹産業である農業の経営・生産基盤の強化を図ります。 .....	4
戦略 2	【農業（安心・安全な農業）】安心・安全な農畜産物の需要の拡大を図ります。 .....	6
戦略 3	【農業（持続可能な農業）】家畜ふん尿処理施設の整備を推進し、バイオマスエネルギーの有効活用を図ります。 .....	7
戦略 4	【商工業】地元に密着した魅力ある商店街づくりを推進し、商工業活動の活性化と経営体質・基盤の強化を促すとともに、地域における安定した雇用をめざします。 .....	9
戦略 5	【学校教育】グローバル社会における人材育成を図ります。 .....	11
基本目標 2	交流・定住・関係人口を増やすまち .....	12
戦略 6	【瓜幕地域の振興】自然体験留学を通して、他者への理解を促進する教育の振興や、関係人口・定住人口の増加などによる地域の活性化を図ります。 .....	12
戦略 7	【学校教育】イノベーションを担う人材、確かな学力及び幅広い知識と教養・専門的能力・職業実践力の育成を図ります。 .....	14
戦略 8	【観光】収益性が高く、安定して持続できる観光サービスの振興を図ります。 .....	16
戦略 9	【住宅】民間賃貸住宅の増加や中古住宅の活用を促進します。 .....	18
戦略 10	【交流】国内外の地域との交流をとおして、新たな視点でのまちづくりを進め、新しい人の流れをつくります。 .....	20
基本目標 3	子どもを産み・育てやすく、子どもが育つまち .....	21
戦略 11	【子育て支援】「こども家庭センター」を設置し、母子保健と児童福祉を一体的に行うことで、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない、より充実した子育て支援に努めます。 .....	21

戦略 12	【学校教育】豊かな心の育成を図ります。 .....	23
戦略 13	【家庭教育】豊かな心の育成を図ります。 .....	24
基本目標 4	魅力的で安心なくらしができるまち .....	25
戦略 14	【エネルギー】鹿追町ゼロカーボンシティ推進戦略に基づき「カーボンマイナス」を追求し、「脱炭素選考地域事業」を柱としながら、併せて行政・社会課題の解決を図ります。 .....	26
戦略 15	【ジオパーク】子ども達にジオパーク的な観点から見た地域の特徴をしっかりと伝え、郷土愛や自己肯定感につなげるとともに、観光客や修学旅行生などに、とち鹿追ジオパークの魅力を伝え、鹿追町への新たな人の流れをつくっていきます。 .....	28
戦略 16	【情報通信】情報通信技術の恩恵を受けることのできる人とできない人の間に生じる格差の解消に努めるとともに、業務効率化、公共サービスの向上を図るため、デジタル化を推進します。 .....	30
戦略 17	【健康づくり】健康診査や保健指導などにより、生活習慣病の発症・重症化予防に取り組むとともに、ライフステージの課題に応じた健康づくりを推進し、個別指導と健康増進への支援強化を図ります。 .....	31
戦略 18	【高齢者福祉】高齢者がいつまでも住み慣れた地域で安心して、尊厳のある生活が続けることができるよう、住まい・医療・介護予防・生活支援が一体的に提供される仕組みを考えていきます。 .....	32
戦略 19	【地域福祉】誰もが地域で安心して暮らせる地域福祉活動を進めます。 .....	34
戦略 20	【学習活動（公民館分館）】地域・学校・家庭の連携・協働の推進による地域の教育力の向上を図ります。 .....	35
戦略 21	【学習活動（高齢者）】生涯学び、活躍できる環境整備を推進します。 ..	36
戦略 22	【芸術文化】生涯学び、活躍できる環境整備を推進します。 .....	38
戦略 23	【防災】地域住民への広報活動などにより災害の未然防止と被害の軽減に努めるとともに、各関係機関などと連携して、各種訓練や通信施設の維持改善を進めます。 .....	39
戦略 24	【コミュニティ】町民と行政の間で情報交流がしやすいように様々な機会を設置し、町民の意見や要望を活かしたまちづくりを進めます。 .....	40
戦略 25	【財政運営】中長期的な「公共施設等総合管理計画」や「個別施設計画」、 「行財政改革大綱」、「財政計画」に基づき、効率的な行政執行と健全な財政運営を維持します。 .....	42

# I はじめに

## 1 本戦略について

鹿追町は、1959（昭和 34）年の町政施行の翌年に人口のピーク（10,448 人）を迎えて以降、人口減少が続いています。若い世代が進学等に伴い転出することが多く、2010（平成 22）年以降は自然減に転じていることが大きな要因です。2017（平成 29）年における本町の合計特殊出生率は 1.64 と、国の 1.43、北海道の 1.30 を上回るものの、人口維持に必要とされる 2.07 を下回っており、今後も人口減少は進むことが予測されています。

そのような中、国が、2060 年に 1 億人を確保することをめざし、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及びこれを実現するための「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定したことを受け、本町においても人口減少を抑制し、地方が成長する力を取り戻す「地方創生」をめざした「鹿追町人口ビジョン」及び「鹿追町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、取り組みを進めてきました。

その後、国は、2021（令和 3）年に、「デジタル田園都市国家構想」を掲げたことを受け、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂し、これまでの地方創生の取り組みにデジタルの力を活用して加速させる「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を新たに策定しました。

このような国の動向を受けて、本町においても、これまでの「鹿追町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の取り組みに、デジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化させる視点を取り入れ、デジタル田園都市国家構想の実現に向けた「第 3 期鹿追町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

## 2 他の計画との関係

本戦略では、テレワークの普及や地方移住への関心の高まりなど、社会情勢が大きく変化している中、デジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化させ、「全国どこでも誰もが便利に暮らせる社会」を実現し、人口減少抑制につなげていくための施策をまとめており、その内容は、様々なまちづくり分野におよびます。

そのため、町の最上位計画の「鹿追町総合計画」をはじめ、まちづくりの各分野で策定している個別計画との整合性を十分にふまえ、事業を効果的に行っていくこととします。

### 3 対象期間

本戦略の期間は、2024（令和6）から2027（令和9）年度までの4年間とします。

「第7期鹿追町総合計画」の後期期間と同じ期間であるため、進捗状況をともに確認するとともに、次期総合計画に併せて次期戦略の策定を行います。

なお、戦略期間内において必要がある場合には、「鹿追町まち・ひと・しごと創生推進会議」の意見を踏まえたうえで、戦略の見直しを行います。

### 4 策定・推進体制

本戦略は、産官学金労言やデジタル化推進アドバイザーなどからなる「鹿追町まち・ひと・しごと創生推進会議」をはじめ、各団体代表者などからなる同町民会議、町民代表である鹿追町議会などからの多様な意見を反映し、策定しました。

推進にあたっては、これまでの「鹿追町まち・ひと・しごと創生総合戦略」と同様に、策定に携わった会議への実施報告を行うとともに、次年度に向けての意見を頂き、見直すというPDCAサイクルによる検証、見直しを行いながら、毎年度、着実に取り組んでいくこととします。

### 5 地域ビジョン

本町は「鹿追町総合計画」を最上位計画としています。

鹿追町の重要なまちづくり課題である人口減少の抑制や、地域の特性を生かした活性化など、重視している点と同じであることから、これまで「鹿追町総合計画」と「鹿追町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を一体的に進めてきました。

本戦略においても、引き続き、「鹿追町総合計画」が掲げる方向性を共有し、一体的に施策を進めていくことから、本戦略における地域ビジョンについては、「鹿追町総合計画」が掲げる将来像と同様に、「愛・夢・笑顔 あふれる未来へ～支え合うまち♡しかおい～」とします。

### 6 基本目標と構成

本戦略は、国が示す「施策の方向」を踏まえ、

- 1 産業を振興し、人材を育成するまち
- 2 交流・定住・関係人口を増やすまち
- 3 子どもを産み・育てやすく、子どもが育つまち
- 4 魅力的で安心な暮らしができるまち

の4つを基本目標として掲げ、施策の推進にあたっては、デジタル技術の活用を検討し、課題の解決や魅力の向上を図っていきます。

また、全体の構成としては、基本目標を達成するための戦略と、戦略を進めるための施策と事業を位置づけ、加えて、基本目標の進捗状況（達成状況）を示すための重要業績評価指標（K P I）を設定しています。

重要業績評価指標は、2022（令和4）年度を「現状値（基準値）」とし、戦略対象期間の最終となる2027（令和9）年度を「将来値（目標値）」とします。なお、「第2期鹿追町まち・ひと・しごと創生総合戦略」から継続する指標については、2018（平成30）年度の値を併記しています。

## 国が示す 「施策の方向」

## この戦略の「4つの基本目標」

<b>地方に仕事をつくる</b>	<b>1 産業を振興し、 人材を育成するまち</b>	鹿追町で生活を送るため、また、地域経済・産業の持続化及び活性化のために、その基盤となる人材の育成や後継者対策を図るとともに、安定した雇用の創出と、地域や社会の変化に応じた変革を実現します。
<b>人の流れをつくる</b>	<b>2 交流・定住・関係人口 を増やすまち</b>	鹿追町の魅力・特色を発信するとともに、特徴的なプログラムを継続して推進することで、鹿追町の交流・関係人口を増やし、鹿追町で生活を送りたい人がその希望をかなえられる環境を実現します。
<b>結婚・出産・ 子育ての希望を かなえる</b>	<b>3 子どもを産み・ 育てやすく、 子どもが育つまち</b>	鹿追町で安心して働き、希望どおり結婚・出産・子育てをすることができる社会を実現します。また、子どもたちの主観的ウェルビーイング <sup>1</sup> の向上と健全育成を実現します。
<b>魅力的な地域をつくる</b>	<b>4 魅力的で安心な くらしができるまち</b>	人口の中長期的な展望を踏まえて、機能的・効率的で持続可能な生活基盤を構築します。また、地域社会を構成する人々が共に支え合い、安全で、安心して住み続けられる社会を実現します。

<sup>1</sup> 健康、幸福、福祉などに直訳され、世界保健機関（WHO）では、「肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態」の幸福を意味する言葉として定義しています。

## II 戦略の内容

### 基本目標1 産業を振興し、人材を育成するまち

【地方に仕事をつくる】

#### 《基本的方向》

- ・農業では、基盤整備やバイオガスプラント事業などにより、大規模化や就業形態の変化がみられる中、基盤整備やバイオガスプラント事業の推進・拡大を進め、安定的な農業関係者の雇用の場を創出します。
- ・商工業では、キャッシュレス決済や事業継承、空き店舗対策など新たな町内企業支援や道の駅の機能強化、物産振興を目的とした連携強化などを通して、安定した雇用と持続可能な地域経済のための変革を図ります。
- ・学校教育では、一層の外国語教育の充実を図り、グローバルに活躍する人材を育て活かします。

### 戦略1 【農業（経営・基盤整備）】基幹産業である農業の経営・生産基盤の強化を図ります。

#### 現状と課題

##### （現状）

- ・農業にとって生産性や品質向上のための生産基盤の強化は不可欠であり、近年の異常気象による大雨や長雨、干ばつに強い圃場整備を、国営・道営事業により大規模な農業基盤整備事業を進めてきました。

##### （課題）

- ・基盤整備事業により生産性や品質向上などの効果が出ていますが、未整備農地や施設の老朽化により機能が低下している圃場も多く、基盤整備事業を計画的に実施する必要があります。

#### 施策

##### ○農業基盤整備事業の推進

- ・農業基盤整備（区画整理・暗渠排水・石礫除去・明渠排水路<sup>2</sup>・畑地かんがいなど）により、生産性・品質の向上と農作業の効率化を図り、農村景観や環境保全に配慮した国営・道営事業による農業基盤整備事業を計画的に実施します。

<sup>2</sup> 畑の土の中に水が流れる溝（暗渠）を作り排水したり、石礫（小さな石）を取り除いたり、地上に設けられた上部を開けたままの排水溝（明渠）で排水したりすることです。

### 本戦略が「地方に仕事をつくる」につながる考え方

農業基盤整備は、持続可能な農業の土台づくりであり、生産性・品質の向上及び農作業の効率化などが期待できることが、地域における安定した雇用の創出（地方に仕事をつくる）ことにつながると思います。

### 重要評価業績指標（KPI）

指標	参考値 2018(H30)年度	現状値 2022(R4)年度	将来値 2027(R9)年度
国営・道営農業基盤整備事業の実施地区数	5 地区	4 地区	4 地区
多面的機能支払事業実施事業費	101,430 千円	101,323 千円	101,000 千円

### 基本事業名

国営かんがい排水事業笹川地区
美蔓高台地区道営農業基盤整備事業
中鹿追地区道営農業基盤整備事業
東瓜幕地区道営農業基盤整備事業
笹川地区道営農業基盤整備事業
防除用水施設維持管理
美蔓地区かんがい施設維持管理
多面的機能支払事業



## 戦略2 【農業（安心・安全な農業）】安心・安全な農畜産物の需要の拡大を図ります。

### 現状と課題

#### （現状）

- ・産地偽装や食材偽装などが発生しており、食品に対する消費者の安全志向が高まっています。

#### （課題）

- ・産地偽装や食材偽装などにより、さらなる安心・安全な農畜産物が求められています。

### 施策

#### ○安心・安全な農畜産物の需要拡大

- ・安心・安全な高品質の乳製品や農畜産物の需要がさらに増すと想定される中で、基本となる乳質及び生産力を引き続き高めるとともに、競争力や地域力を向上させ「消費者に選ばれる農畜産物」の生産を推進します。

#### 本戦略が「地方に仕事をつくる」につながる考え方

「消費者に選ばれる」ための様々な施策を進めることで、農畜産物の需要が拡大することが、地域における安定した雇用の創出（地方に仕事をつくる）につながると考えます。

### 重要評価業績指標（KPI）

指標	参考値 2018(H30)年度	現状値 2022(R4)年度	将来値 2027(R9)年度
各種イベント等における 農畜産物需要拡大P R・ 普及活動の回数	5回	6回	6回
乳製品消費拡大P R回数	－	7回	7回

### 基本事業名

安心安全な農畜産物の生産

### 戦略3 【農業（持続可能な農業）】家畜ふん尿処理施設の整備を推進し、バイオマスエネルギーの有効活用を図ります。

#### 現状と課題

##### （現状）

- ・家畜排せつ物や生ゴミ、下水汚泥などの廃棄物をバイオマス資源として有効活用しています。

##### （課題）

- ・飼養頭数の増加に伴い、家畜ふん尿処理に係る作業量などが増加していることから、新たなバイオガスプラントの整備や、さらなる有効活用が求められています。

#### 施策

##### ○バイオガスプラントの有効活用・推進

- ・家畜ふん尿処理施設であるバイオガスプラントのさらなる有効活用を推進するとともに、未整備地区の整備を推進します。
- ・FIT<sup>3</sup>終了後を見据え、バイオガスエネルギーの有効活用を推進するため、水素エネルギーや熱利用などについての調査・研究を実施します。

#### 本戦略が「地方に仕事をつくる」につながる考え方

バイオガスプラント事業をさらに推進・拡大をすることにより、民間組織である「バイオガスプラント利用組合」における新たな雇用が創出されると考えます。

また、現在進めている余剰熱活用事業の需要の拡大や、水素エネルギーなどの先進的なエネルギーの調査・研究・活用を進めることで、専門的な技術者などの雇用や地域活性化が期待できることが、地域における安定した雇用の創出（地方に仕事をつくる）につながると考えます。

#### 重要評価業績指標（KPI）

指標	参考値 2018(H30)年度	現状値 2022(R4)年度	将来値 2027(R9)年度
バイオガスプラントによるバイオマス資源活用量	152,500 t	176,398 t	181,000 t
バイオマス事業における雇用数	19 名	22 名	27 名
水素エネルギーの利活用による水素製造量	25,208 m <sup>3</sup>	54,214 m <sup>3</sup>	100,000 m <sup>3</sup>

<sup>3</sup> 「固定価格買取制度」のことで、太陽光発電などの再生可能エネルギーで発電した電気を、国が決めた価格で一定期間買い取るよう、電力会社に義務付けた制度です

## 基本事業名

鹿追町環境保全センター事業
バイオマスエネルギー活用事業
有機質園芸肥料の商品化
水素エネルギー活用事業

## 戦略4 【商工業】地元に着した魅力ある商店街づくりを推進し、商工業活動の活性化と経営体質・基盤の強化を促すとともに、地域における安定した雇用をめざします。

### 現状と課題

#### (現状)

- ・商工会との連携により、多様化する消費者のニーズや地元事業者の下支えとなる事業を推進し、商工業活動の活性化に努めています。

#### (課題)

- ・小規模店ならではの顧客満足度を高める取り組みや、町内での購買力回復へ向けた取り組みが必要です。
- ・年間約70万人にのぼる観光客が訪れることによって商工業にもたらす経済効果は大きく、購買力の流入を促進することが必要です。
- ・町内農畜産物などを原料とした地場製品の販売促進を図るため、新たな商品・サービスの開発を進めるとともに、地域内外への積極的な発信と事業者のプロモーション活動への取り組みが必要です。
- ・近隣市町や通信販売への消費の流出、さらには高齢化、後継者不在、人材確保難などを解決し、町内企業の経営の安定、資金調達の円滑化などへの取り組みが必要です。

### 施策

#### ①商工会経営改善事業・一般事業の推進

- ・経済観光交流館を地場産業振興の拠点とし、商工会を地域活性化のために重要な組織と位置づけ、経営管理能力などの向上への支援を強めます。
- ・国内外からの観光客、町民の多様化する消費（支払い）ニーズへの対応として、商工会と連携したキャッシュレス決済の取り組みを実施し、流出した購買力を取り戻すため、活動内容の充実や、町内での消費活動への意識の高揚に努めます。

#### ②道の駅しかおい・うりまく、観光協会との連携

- ・道の駅しかおい・うりまくを物産販売の拠点と位置づけ、施設の機能強化と観光案内などのソフト面での充実を推進します。
- ・物産振興を図るため、観光協会と連携したPR活動を促進します。

#### ③町内企業への支援

- ・町独自の優遇制度を活用し、企業の機能拡充を図るとともに、ニーズに合わせ制度を見直し、周知活動により拡大及び起業支援を推進します。
- ・事業継承、空き家対策について商工会と連携して実態調査などの実施と結果を基に、(1)外部のマッチングサイト活用、(2)補助金を活用し専門家の派遣（相談会）、(3)不動産との連携により新たなスタイルによるリースなどの対策を検討します。

### 本戦略が「地方に仕事をつくる」につながる考え方

活気あふれる持続可能な商工業を推進するため、商工会、観光協会活動などを積極的に支援することで、事業者の健全な経営や、地域や社会のニーズや変化への対応に貢献できることが、地域における安定した雇用の創出（地方に仕事をつくる）につながると考えます。

### 重要評価業績指標（KPI）

指標	参考値	現状値	将来値
	2018(H30)年度	2022(R4)年度	2027(R9)年度
商工会会員数	169	158	158
道の駅連携イベント実施数	2	0	5

### 基本事業名

商工会経営改善普及事業
商工会一般事業
商工業事業資金利子補給事業
観光協会活動補助事業

## 戦略5 【学校教育】グローバル社会における人材育成を図ります。

### 現状と課題

#### (現状)

- ・これまで取り組んできた外国語教育や国際理解教育を土台として、グローバル人材の育成のため、国際バカロレア<sup>4</sup>の認定をめざしています。

#### (課題)

- ・グローバルな立場から社会の持続的な発展を生み出す人材やグローバルな視点を持って地域社会の活性化を担う人材の育成を、地方においても推進していく必要があります。

### 施策

#### ○外国語教育の充実

- ・外国語でコミュニケーションを図る資質・能力を着実に育成するため、指導の改善やICT（情報通信技術）の一層の活用促進、ALTの特別免許状取得や専科教員による学校指導体制の充実、小学校低学年生活科におけるイマージョンプログラム<sup>5</sup>を実施します。

#### 本戦略が「地方に仕事をつくる」につながる考え方

深い国際理解のための外国語教育の充実を図ることが、地域における人材の育成や新たな雇用の創出（地方に仕事をつくる）につながると考えます。

### 重要評価業績指標（KPI）

指標	現状値 2022(R4)年度	将来値 2027(R9)年度
高3のCEFR-B1相当以上の生徒の割合	測定値なし	50%

### 基本事業名

英語力向上のための実践プログラム事業

<sup>4</sup> スイス発祥の国際的な教育プログラムで、国際バカロレア機構が認定・提供している、世界中どこにいても同水準の教育を受けることができ、必要条件を満たせば世界各国の大学への入学資格を得られる学習プログラムです。

<sup>5</sup> 未修得の言語を身につける学習方法の一つで、通常の授業を第二言語で行うことによって、第二言語を修得させる教育プログラムです。

## 基本目標 2 交流・定住・関係人口を増やすまち

### 【人の流れをつくる】

#### 《基本的方向》

- ・瓜幕地域の振興では、持続的にひとの流れを構築し、親子留学を積極的に受け入れながら「移住・定住」に大きく貢献してきた自然体験留学制度を今後も推進し、都市からの人口流入を増やすことにつなげます。
- ・学校教育では、高等学校の国際化を図るとともに、公設塾や探究教育、地域みらい留学の支援を行うことで高等学校の魅力をさらに向上させ、町内外からの入学者確保に努めます。
- ・観光では、国立公園エリアと道の駅しかおいの機能強化と有効活用を進め、さらなる誘客促進と長期滞在への誘導を図ります。
- ・住宅では、これまでの住宅施策や空き家施策を推進しつつ、総合的な空き家対策に取り組むことで、定住希望者の受入環境を整えます。
- ・交流においては、ストニイプライン町との姉妹交流を継続し、教育や文化、移住体験などの連携を進めます。

### 戦略 6 【瓜幕地域の振興】自然体験留学を通して、他者への理解を促進する教育の振興や、関係人口・定住人口の増加などによる地域の活性化を図ります。

#### 現状と課題

##### （現状）

- ・1987（昭和 62）年から、豊かな自然の中での体験をとおして、教育及び瓜幕地域の活性化と都会と地域の子ども相互の交流を推進する「自然体験留学制度」を実施しています。

##### （課題）

- ・瓜幕地域における関係人口・定住人口の増加による地域活性化や、多様な人間関係を築くことによる他者への理解を促進する教育を継続することが必要です。
- ・自然体験留学センターの老朽化が進んでおり、再整備の検討が必要です。

#### 施策

##### ○自然体験留学制度の推進

- ・老朽化した留学センターの再整備へ向けた検討を進めるとともに、自然体験留学制度推進連絡協議会と連携し、自然体験留学制度を推進します。

### 本戦略が「人の流れをつくる」につながる考え方

自然体験留学制度では、これまでも持続的にひとの流れを構築し、親子留学を積極的に受け入れながら「移住・定住」に大きく貢献しており、今後も地域と連携した制度の推進と、老朽化した施設の改修を図ることが、「人の流れをつくる」につながると考えます。

### 重要評価業績指標（KPI）

指標	参考値 2018(H30)年度	現状値 2022(R4)年度	将来値 2027(R9)年度
親子留学者数	5名	11名	10名

### 基本事業名

自然体験留学制度の推進



## 戦略7 【学校教育】イノベーションを担う人材、確かな学力及び幅広い知識と教養・専門的能力・職業実践力の育成を図ります。

### 現状と課題

#### (現状)

- ・鹿追高校存続に向けた入学者確保のため、探究教育やカナダ短期留学、オンライン公設塾など高等学校の特色ある教育プログラムに対する支援を行っているほか、管外からの入学希望者への対策として「地域みらい留学」の支援や、高校寮の確保の取り組みを進めています。
- ・幼少中高一貫教育や、とちぎ鹿追ジオパーク<sup>6</sup>と連携した環境教育など鹿追町ならではの教育カリキュラムを進めるとともに、タブレット端末などが活用できるICT（情報通信技術）環境の整備に取り組んできました。

#### (課題)

- ・同質ではなく異質なものと融合こそがイノベーション<sup>7</sup>を生み出すとの発想のもと、多様な才能・能力を生かす教育を行なっていくことが求められています。
- ・学びの動機づけや幅広い資質・能力の育成に向けて「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を行っていくことは、社会の持続的な発展を生み出す人材養成において不可欠です。

### 施策

#### ①探究教育の充実

- ・児童生徒が主体的に課題を自ら発見し、多様な人と協働しながら課題を解決する探究学習の充実を図るための、義務教育における国際バカロレア<sup>8</sup>の認定を目指します。
- ・鹿追高校の「鹿追創生プロジェクト<sup>9</sup>」など、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた、先進的なグローバル教育、産業界と一体となった実践的な教育等への支援を実施します。
- ・生徒の探究力の育成に資する取り組みを充実・強化するとともに、探究・アント

<sup>6</sup> 地形・地質から地球の過去を知り、未来を考えて、活動する場所です。鹿追町は全域が「とちぎ鹿追ジオパーク」として日本ジオパークに認定されています。

<sup>7</sup> 新しいアイデアや技術を生み出し、社会に新たな価値を提供することを目的とした取り組みです。

<sup>8</sup> スイス発祥の国際的な教育プログラムで、国際バカロレア機構が認定・提供している、世界中どこにいても同水準の教育を受けることができ、必要条件を満たせば世界各国の大学への入学資格を得られる学習プログラムです。

<sup>9</sup> 鹿追高校が課題解決のプロジェクト型学習として取り入れているもので、鹿追町の様々な課題を解決するために状況を分析し、仮説を立て、具体的な解決策を生み出して生徒自らが行動します。現代社会を知ることができ、柔軟な考え方やコミュニケーション能力を身につけます。

レプレナーシップ（起業家教育）<sup>10</sup>を支える企業や機関等との連携・支援を推進します。

### ②イノベーションを担う人材育成

・鹿追高校の「地域みらい留学」への支援を実施します。

### ③学校段階間・学校と社会の接続の推進

・鹿追町幼小中高一貫教育の特色あるカリキュラム編成や指導体制の在り方等に関する情報を発信します。

#### 本戦略が「人の流れをつくる」につながる考え方

学校教育では、より良い教育環境づくりと鹿追高校存続などのために、幼小中高一貫教育による特色あるカリキュラムを推進するとともに、高校の入学増加のための取り組みを進めてきており、今後も継続して更なる推進を図ることが、「人の流れをつくる」につながると考えます。

#### 重要評価業績指標（KPI）

指標	現状値	将来値
	2022(R4)年度	2027(R9)年度
主体性に関わる自己認識で肯定的に回答する鹿追高校生の割合	測定値なし	70%

#### 基本事業名

国際バカロレア教育事業
鹿追高校みらい留学事業
幼小中高一貫教育事業

<sup>10</sup> 起業家教育ともいわれ、狭義には起業家（アントレプレナー）を育成する教育とされます。最近では、アントレプレナーシップ教育として起業家に求められる性質や態度（シッ  
プ）を育成する教育として幅広く捉えられています。

## 戦略8 【観光】収益性が高く、安定して持続できる観光サービスの振興を図ります。

### 現状と課題

#### (現状)

- ・本町の観光エリアは、然別湖から然別峡を含めた国立公園エリアと、山麓に広がる農村、市街地エリアで構成されています。
- ・本町には、30年以上の歴史を誇る国内初の民設ガイドセンターがあり、然別湖を中心に自然体験など良質で多様なガイドメニューを展開しているほか、トレッキング、乗馬、フィッシング、熱気球、自転車、犬ぞりなど専門の事業者が多様なアクティビティを提供しています。
- ・山麓に広がる農村エリアでは、農家民宿や農家レストランなど農業と観光を融合させた「グリーンツーリズム」が展開されているほか、「アドベンチャーツーリズム」「サイクルツーリズム」など新たな切り口による多様な観光旅行が始まっています。
- ・そばやオショロコマ（ミヤベイワナ）など、古くから特産品として認められてきた物産や飲食を含めさまざまなコト（体験）ができる体験型観光のほか、1ヶ所または1地域に一定期間滞在（宿泊）して、地域を楽しむ「滞在型観光」も増えています。

#### (課題)

- ・グリーンシーズン（5月～9月）、コタン開村期（1月～3月）以外の閑散期に観光客を誘導し、観光シーズンの平準化を図ることが必要です。
- ・国立公園の大自然を後世に引き継ぐため、観光利用でのオーバーユースによる自然環境の破壊や外来種の侵入、ごみ問題などへの対策を講じ、サステイナブルな観光エリアの実現が必要です。
- ・道の駅しかおいの施設再整備を機に、リピーターの増加と、宿泊を含む町内での滞在時間の増加を図ることが必要です。
- ・観光客などの需要の変化に対応するため、相談やアドバイス、さらには予約機能を併せ持った総合的なインフォメーションサービス事業の展開が必要です。

### 施策

#### ①国立公園エリアの活用推進及び誘客施策の展開

- ・既存施設の維持管理や新たな付加価値を加えるなどの有効活用を図るとともに、町全体を観光資源と位置づけ、さらなる誘客促進に努めます。

#### ②道の駅しかおいを核とする観光拠点づくり

- ・道の駅しかおいの再整備を進めつつ、観光の拠点施設として充実させるとともに、町民が足繁く訪れる賑わいのある道の駅をめざした取り組みを実施します。

#### ③長期（長時間）滞在への誘導

- ・観光客以外の来町者（通過者、視察研修、出張、帰省など）の滞在期間・時間を

延ばし観光消費行動につなげるため、関係事業者（団体）と連携した取り組みを進めるとともに、多様化する宿泊者のニーズに対応する施設整備を検討します。

#### 本戦略が「人の流れをつくる」につながる考え方

「国立公園エリア」は本町の観光の柱であり、希少で豊かな自然環境があります。また、「道の駅しかおい」は本町の観光の拠点です。この2つのエリア及び施設などの機能強化や来町のきっかけとなる新たなプロジェクトを進め、さらには長期滞在への誘導を図ることが、効果的に「人の流れをつくる」ことにつながると考えます。

#### 重要評価業績指標（KPI）

指標	参考値 2018(H30)年度	現状値 2022(R4)年度	将来値 2027(R9)年度
観光客数 (うち外国人観光客)	742,000 人	658,500 人 (3,713 人)	872,000 人 (7,000 人)

#### 基本事業名

国立公園エリアの活用推進
来町のきっかけとなる事業（サイクリングロード、道の駅再編など）の推進
体験型観光資源を活用した観光の推進
観光客誘致促進

## 戦略9 【住宅】民間賃貸住宅の増加や中古住宅の活用を促進します。

### 現状と課題

#### (現状)

- ・全国的に空き家対策が問題になっている一方、新築住宅価格の上昇、地方移住の動きなども相まって、中古住宅取得のニーズが高まっています。
- ・「空き家・空き地バンク」をホームページで開設し、中古住宅などの情報を提供しています。
- ・「鹿追型ゼロカーボンシティ<sup>11</sup>」の実現に資することを目的とし、北海道型の住宅性能を定めた北方型住宅Z E R Oや、省エネ性能向上リフォームの助成を行っています。

#### (課題)

- ・急増していくであろう空き家などが有効な資産として所有者が認識し、すみやかに次の世代へつないでいく有効な仕組みづくりが求められています。

### 施策

#### ○活かされる、空き家など対策計画の策定検討

- ・「住生活基本計画」をもとに、空き家などへの対応の在り方を検討します。
- ・住宅施策や廃屋の解体制度、空き家・空き地バンク制度など既存の施策を推進しつつ、総合的な空き家対策や中古住宅施策を検討します。

#### 本戦略が「人の流れをつくる」につながる考え方

解体も含め空き家の利活用を進めることで、新たな宅地の創出や住宅環境の整備につながり、中古住宅や地方移住のニーズが高まるなか、定住や外部からの流入が促進され、人の流れをつくることにつながると考えます。

### 重要評価業績指標 (KPI)

指標	現状値	将来値
	2022(R4)年度	2027(R9)年度
定住促進住宅奨励制度による中古住宅購入者	4件	3件
新規空き家バンク登録住宅件数	0件	3件

<sup>11</sup> 町民と一体となって脱炭素を推進し、カーボンニュートラルの先、「カーボンマイナス」を追求する取り組みです。

## 基本事業名

定住促進住宅奨励制度
空き地・空き家バンク事業
空家対策総合推進会議事業

## 戦略 10 【交流】国内外の地域との交流をとおして、新たな視点でのまちづくりを進め、新しい人の流れをつくります。

### 現状と課題

#### (現状)

- ・本町は 1985 (昭和 60) 年にカナダ・アルバータ州ストニィプレイン町と姉妹提携を締結し、交換留学をはじめとした様々な交流事業が進められています。

#### (課題)

- ・異文化交流を通じて国際的感覚を身に付けることが重要です。

### 施策

#### ○国際姉妹都市との交流促進

- ・ストニィプレイン町との交流を継続し、相互間で新たな事業を模索します。

#### 本戦略が「人の流れをつくる」につながる考え方

ストニィプレイン町とは交換留学や移住体験交流など、様々な事業を持続的に進めています。本交流がきっかけで海外への進学や航空会社で活躍する町民も輩出されており、ひきつづき新たな事業展開を見据えながら交流を進めることが、グローバルで新たな人の流れをつくることにつながると考えます。

### 重要評価業績指標 (KPI)

指標	参考値 2018(H30)年度	現状値 2022(R4)年度	将来値 2027(R9)年度
受入れホスト家庭	308 家庭	318 家庭	358 家庭

### 基本事業名

ストニィプレイン町との交流事業

## 基本目標3 子どもを産み・育てやすく、子どもが育つまち

### 【結婚・出産・子育ての希望をかなえる】

#### 《基本的方向》

- ・子育て支援では、結婚から妊娠・出産、そして子育て期にわたる切れ目の無い支援を包括的かつ継続的に行っていくことで、子どもを産み育てやすい環境を整えます。
- ・学校教育では、学校教育活動全体を通じた子どもたちのウェルビーイングの向上を図ります。
- ・家庭教育では、デジタル世代に生きる子どもたちのネットリテラシーの向上に努め、安全に子どもたちが成長する環境を整えます。

### 戦略11 【子育て支援】「こども家庭センター」を設置し、母子保健と児童福祉を一体的に行うことで、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない、より充実した子育て支援に努めます。

#### 現状と課題

##### (現状)

- ・子育て支援などへの相談や要望が高まりを見せていることから、家庭や地域社会との連携を図り、保護者の理解・協力のもとに子どもが健康・安全で情緒の安定した生活を送られるよう努めています。
- ・乳幼児健診や新生児訪問、相談、各種助成など、妊娠期から子育て期まで各種サービスを充実させ、より子育てしやすい環境づくりに努めています。
- ・国は、子どもを取り巻く行政分野を一元化するため、2023（令和5年）にこども家庭庁を設置するとともに、児童福祉法を改正し、全ての妊産婦・子育て世帯・子どもの包括的な相談支援等を行う「こども家庭センター」を市町村に設置することを努力義務化しました。

##### (課題)

- ・妊娠・子育てに関する経済的負担の軽減や、相談体制を充実することにより、安心して子育てができる環境を整えることが重要です。

#### 施策

##### ○子育て世代の包括的支援

- ・母性・父性相互の役割を理解し、協力しながら子育てができるよう、健康教育・相談を実施します。
- ・乳幼児の心身の発達を促す支援の強化として、新生児訪問、適正月齢ごとの健康診査、健康相談、離乳食指導及び離乳食訪問などの推進、さらに新生児や何らか



の問題を持つ子どもに対し、早急な対応・支援を行い、親の理解と意識の高揚を図ります。

- ・妊婦に対し、妊娠早期からの定期健診の勧奨により妊娠期を健康に過ごし、安心して出産できるよう経済支援を行います。
- ・不妊治療は経済的・肉体的な負担が大きいことから、経済的負担の軽減を図るため治療費を助成し、子どもを産み、育てやすい環境を整備します。
- ・身体の発達が未熟なまま産まれ入院を必要とする乳児の保護者に対し、乳児を安心して育てられるよう治療費を助成します。
- ・こども家庭センターにおいて、妊娠・出産・育児に関する各種の相談に応じ、切れ目のない支援体制を整備します。

#### 本戦略が「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」につながる考え方

妊娠・子育てに関する経済的負担の軽減や、相談体制を充実することにより、安心して子育てできる環境を整えることが、結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえるにつながると考えます。

#### 重要評価業績指標（KPI）

指標	参考値	現状値	将来値
	2018(H30)年度	2022(R4)年度	2027(R9)年度
この地域で子育てしたいと思う保護者の割合（1歳6ヶ月健診での子育てアンケートより）	97.7%	96%	100%
子育て世代包括支援センターを知っている妊婦の割合（母子健康手帳交付時）	-	43%	50%

#### 基本事業名

妊娠・出産・子育てに関する相談
母子手帳アプリ
妊婦一般健康診査助成事業・妊産婦安心出産支援事業・妊婦一般健康診査自己負担助成事業
育児パッケージ事業
出産・子育て応援交付金
ママパパ教室の実施
産後ケア
乳幼児健診・相談などの実施
親子の交流会・子育てに関する健康教育
不育症・不妊治療費助成事業
こども家庭センターの設置・運営

## 戦略 12 【学校教育】豊かな心の育成を図ります。

### 現状と課題

#### （現状）

- ・2023（令和5）年には、鹿追町における教育の在り方と施策を示す「鹿追町教育大綱」を策定し、「持続可能な社会の創り手の育成」及び「ウェルビーイング<sup>12</sup>の向上」を総括的な方針として、教育に携わる者が一丸となり教育施策を推進しています。

#### （課題）

- ・個人と社会のウェルビーイングを実現していくためには、社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成が必要です。

### 施策

#### ○主観的ウェルビーイングの向上

- ・学校教育活動全体を通じた子どもたちのウェルビーイングの向上を目指します。

#### 本戦略が「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」につながる考え方

子育てと密接に関係する学校教育活動において、子どもたちの主観的ウェルビーイングの向上を図ることは、保護者へ子育ての楽しみや充実を与えるとともに、子育てのしやすい環境を整えることとなり、結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえるにつながると考えます。

### 重要評価業績指標（KPI）

指標	現状値	将来値
	2022(R4)年度	2027(R9)年度
生活に関する生徒アンケート	測定値なし	50%以上

### 基本事業名

CAP 事業

<sup>12</sup> 健康、幸福、福祉などに直訳され、世界保健機関（WHO）では、「肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態」の幸福を意味する言葉として定義しています。

## 戦略 13 【家庭教育】豊かな心の育成を図ります。

### 現状と課題

#### (現状)

- ・鹿追町においては、子どもたちの望ましい生活習慣の定着をめざすために「すくすく運動<sup>13</sup>」の推進に取り組んでいます。

#### (課題)

- ・インターネットの普及や一人一台端末を活用した学習活動が行われる中、望ましい生活習慣の定着や犯罪などに巻き込まれないためにも、インターネットを適切に利用することの重要性は益々高まっています。

### 施策

#### ○青少年の健全育成

- ・インターネット利用に関する「親子のルールづくり」など、家庭における適切な生活習慣の定着に向けた取り組みを推進します。

#### 本戦略が「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」につながる考え方

子育てと密接に関係する社会教育活動において、子どもたちの健全で安心・安全な成長を図るための家庭教育支援は、子育てのしやすい環境を整えることとなり、結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえるにつながると考えます。

### 重要評価業績指標 (KPI)

指標	現状値	将来値
	2022(R4)年度	2027(R9)年度
親子で使用ルールを決めている児童・生徒の割合	測定値なし	30%
挨拶の習慣が身についている児童・生徒数の割合	測定値なし	80%

### 基本事業名

インターネット・スマートフォン使用ルール

すくすく運動

<sup>13</sup> 子どもの生活習慣の向上を図るための運動で、「あいさつをしよう」、「けじめのある生活をしよう」、「約束・決まりを守ろう」の3つの取り組みを行っています。

## 基本目標4 魅力的で安心な暮らしができるまち

### 【魅力的な地域をつくる】

#### 《基本的方向》

- ・エネルギーでは、ゼロカーボンの推進は鹿追町の大きな価値・魅力の一つとなっており、脱炭素先行地域計画の着実な実行を進めます。
- ・ジオパークでは、次世代に伝えるべき自然・文化遺産の保護・保全活動を進めるとともに、町民が鹿追町の魅力と課題を理解し、観光客などの訪問者に向けて発信できるよう支援を行います。
- ・情報通信では、情報格差対策を進めるとともに、業務効率化と公共サービスの向上の両側面からデジタル化を推進し、町民が生活しやすい魅力的な地域をつくります。
- ・健康づくりでは、健康診査や保健指導に努め、ライフステージの課題に応じた健康づくりを推進し、健康寿命の延伸を図ることで高齢者がいきいきと生活する魅力的な地域をつくります。
- ・高齢者福祉では、高齢者を支える地域の支えあいの体制（地域包括ケアシステム<sup>14</sup>）づくりを推進し、住民主体の活動や関係機関の多様なサービス提供体制を取り入れ、住まい・医療・介護予防・生活支援など、多様な視点から高齢者を包括的に支援できる体制づくりを強化し、安心な暮らしを守ります。
- ・地域福祉では、制度の谷間で孤立してしまい「生きづらさ」を感じている人を支援できる体制づくりを強化し、安心な暮らしを守ります。
- ・学習活動では、町民が活動するきっかけやコーディネートを行う社会教育人材の養成や、その登録制度（人材バンク）の整備をすすめ、町民が生涯活躍できる魅力的な地域をつくります。
- ・防災では、近年、自然災害が多発、甚大化する中で、防災体制の強化を図ることで、安全な暮らしを守ります。
- ・コミュニティでは、町民が将来にわたって安心して暮らすために必要不可欠な地域力の向上のために、住民自治組織である町内会の体制支援等を図るとともに、自分たちの手で自分たちの未来を創る町民が主役の町づくりを推進します。
- ・財政運営では、持続可能な行財政基盤の確立を図るため、町民のニーズに応じた「選択と集中」により、あらゆる効率化を図ります。

---

<sup>14</sup> 可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができることを目的とした、地域の包括的な支援・サービス提供体制です。

## 戦略 14 【エネルギー】鹿追町ゼロカーボンシティ推進戦略に基づき「カーボンマイナス」を追求し、「脱炭素先行地域事業」を柱としながら、併せて行政・社会課題の解決を図ります。

### 現状と課題

#### （現状）

- ・2021（令和3）年3月に「鹿追型ゼロカーボンシティ宣言<sup>15</sup>」を行い、全町組織「鹿追町ゼロカーボンシティ推進協議会」を設置するとともに、バイオガスプラントの取り組みを核としながら町民と一体となって脱炭素を推進し、カーボンニュートラル<sup>16</sup>の先「カーボンマイナス」を追求する「鹿追町ゼロカーボンシティ推進戦略」を策定し、取り組んでいます。

#### （課題）

- ・電気や熱のほか新たな再生可能エネルギーの有効活用が必要です。

### 施策

#### ○新たな再生可能エネルギーの有効活用

- ・脱炭素先行地域計画を着実に実行し、水素燃料電池やメタンガスコジェネレーション、再生可能エネルギー100%電気など、再生可能エネルギーの新たな有効活用と利用促進を図ります。

#### 本戦略が「魅力的な地域をつくる」につながる考え方

本町は国の脱炭素先行地域に選定されており、先進地としてその取り組みが注目されることで、全国的な本町の知名度も少しずつ高まっています。ゼロカーボンの推進は鹿追町の大きな魅力や可能性となっており、活動の一層の推進とPRが、魅力的な地域をつくることにつながると考えます。

<sup>15</sup> バイオガスプラントを核とした再生可能エネルギーの更なる有効活用を進め、SDGsが示す持続可能な国際社会の確立に寄与するとともに、脱炭素による地方創生を目指し、2050年までにカーボンニュートラルを実現するべく、2021年3月に行った宣言です。

<sup>16</sup> 二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることです。

## 重要評価業績指標（KPI）

指標	現状値	将来値
	2022(R4)年度	2027(R9)年度
新たな再生可能エネルギーの有効活用数	0 件	3 件
脱炭素先行地域事業による Co2 排出削減量	0 t	2,812 t

## 基本事業名

脱炭素先行地域事業
重点対策加速化事業などの脱炭素推進事業

**戦略 15 【ジオパーク】** 子ども達にジオパーク的な観点から見た地域の特徴をしっかりと伝え、郷土愛や自己肯定感につなげるとともに、観光客や修学旅行生などに、とち鹿追ジオパークの魅力伝え、鹿追町への新たな人の流れをつくっていきます。

#### 現状と課題

##### (現状)

- ・地球そして鹿追町が抱える課題を解決するために、北海道石等を含む地形・地質や貴重な自然遺産を保全、共有し、次の世代に伝えています。
- ・地球全体が抱える課題「地球温暖化」に対し、私たちができることを模索し、解決にむけて活動しています。

##### (課題)

- ・地球、そして鹿追町の貴重な自然環境が少しずつ失われつつあり、その保護・保全が必要です
- ・より多くの町民と共にジオパーク<sup>17</sup>活動を推進することが必要です。

#### 施策

##### ○地域住民への浸透

- ・鹿追町民が鹿追の魅力と課題を理解し、観光客などの訪問者に向けて発信できるよう支援を行います。

#### 本戦略が「魅力的な地域をつくる」につながる考え方

本町は、十勝で唯一のジオパークとして、2013（平成25）年から関係機関と連携して事業を進めており、「とち鹿追ジオパーク」の魅力が地域住民や観光客などに少しずつ浸透しています。SDGsの考えや環境意識が高まる中、活動の一層の推進とPRが魅力的な地域をつくることにつながると考えます。

<sup>17</sup> 地形・地質から地球の過去を知り、未来を考えて、活動する場所です。鹿追町は全域が「とち鹿追ジオパーク」として日本ジオパークに認定されています。

## 重要評価業績指標（KPI）

指標	参考値 2018(H30)年度	現状値 2022(R4)年度	将来値 2027(R9)年度
ビジターセンター来館者数	3,000名	3,139名	3,500名
講座・ツアーなどの受講者数	400名	728名	1,000名

## 基本事業名

各団体の視察受け入れ
ジオパークガイド養成講座
ジオ講座・ジオツアー・ジオカフェ・イベント出店
自然遺産の保全と地球温暖化のモニタリング



**戦略 16 【情報通信】 情報通信技術の恩恵を受けることのできる人とできない人の間に生じる格差の解消に努めるとともに、業務効率化、公共サービスの向上を図るため、デジタル化を推進します。**

**現状と課題**

**(現状)**

- ・デジタル化やA I（人工知能）技術の活用が急速に進む中、本町においては、デジタル化推進アドバイザーと連携し、デジタル化推進のための実現可能性調査を実施しています。
- ・情報通信技術を利用できるかできないかで格差が生じないように、高齢者スマホ教室の開催などを行っています。

**(課題)**

- ・日々進展し続けるデジタル化の流れを捉え、情報格差対策や業務効率化、公共サービスの向上が必要です。

**施策**

**①情報格差対策**

- ・主に高齢者を対象としたスマホ教室などを開催し、情報格差対策に努めます。

**②デジタルツールの導入**

- ・デジタル化推進アドバイザーと連携し、最適なデジタルツールの導入調査を行い、業務効率化を柱としながら、併せて公共サービスの向上を図ります。

**本戦略が「魅力的な地域をつくる」につながる考え方**

デジタル技術やオンラインサービスを活用する高齢者を増やすことで情報格差を縮め、高齢者の町外への流出を防ぐとともに、だれもが便利さを感じる魅力的な地域づくりにつながると考えます。

また、デジタル技術やオンラインサービスを公共サービスで積極的に活用していくことで、生活しやすい魅力的な地域をつくることにつながると考えます。

**重要評価業績指標（KPI）**

指標	現状値	将来値
	2022(R4)年度	2027(R9)年度
業務効率化の為にデジタルツール導入数	1件	3件
公共サービス向上の為にデジタルツール導入数	3件	8件

**基本事業名**

デジタルツール導入事業

**戦略 17 【健康づくり】健康診査や保健指導などにより、生活習慣病の発症・重症化予防に取り組むとともに、ライフステージの課題に応じた健康づくりを推進し、個別指導と健康増進への支援強化を図ります。**

**現状と課題**

**(現状)**

- ・各種健診などの利用を促進し、個別支援を強化し、疾病の早期発見・早期治療につながる総合的な保健事業を推進しています。

**(課題)**

- ・若い世代から積極的な健康づくりや、各種健診などの利用を促進することが重要です。

**施策**

**○健（検）診内容の充実と事後指導の充実**

- ・効果的な健診の実施に努めるとともに、受診率向上をめざします。また、個々の健診結果を分析し、効果的な事後指導を実施します。

**本戦略が「魅力的な地域をつくる」につながる考え方**

効果的な健診の実施により、疾病の早期発見・早期治療につなげ、健康寿命の延伸を図り、活力ある高齢者がいきいきと健康に生活する地域をつくること、魅力的な地域につながると考えます。

**重要評価業績指標（KPI）**

指標	現状値	将来値
	2022(R4)年度	2027(R9)年度
特定健診受診率	48.3%	58%
結果説明会出席率	85.1%	89%

**基本事業名**

特定健康診査
特定保健指導
健診結果説明会
特定健診未受診者対策
生活習慣病重症化予防事業
各種がん検診（胃・肺・大腸・子宮・乳・前立腺）

**戦略 18 【高齢者福祉】 高齢者がいつまでも住み慣れた地域で安心して、尊厳のある生活が続けることができるよう、住まい・医療・介護予防・生活支援が一体的に提供される仕組みを考えていきます。**

**現状と課題**

**(現状)**

- ・核家族世帯が増加し、高齢化率が上昇を示している現状から、今後、介護サービスを必要とする高齢者が増加していくことが予想されています。
- ・介護に関する相談で介護保険や在宅サービスに関する相談が増加しています。
- ・高齢者を支える地域の支えあいの体制づくり（地域包括ケアシステム<sup>18</sup>）を推進しています。
- ・保健分野や社会福祉協議会などとの連携により、高齢者が要介護状態となることの予防や要介護状態などの軽減及び悪化の防止を行っています。
- ・介護サービスを必要とする高齢者に、在宅生活が継続できるよう本人や家族の支援を行っています。

**(課題)**

- ・高齢者が可能な限り住み慣れた地域でそれぞれの能力に応じた自立した日常生活を過ごすことができるよう、住民主体の活動や関係機関の多様なサービス提供体制を取り入れ、医療、介護、予防、住まい、生活支援など多様な視点から高齢者を包括的に支援できる体制づくりをより一層強化していくことが必要です。
- ・高齢者が要介護状態などとなることの予防や軽減、悪化防止につながるよう、高齢者が住み慣れた環境で生活できるよう支援していくことが必要です。

**施策**

**○地域包括ケアシステムを推進する体制の充実**

- ・地域の支援を必要とする高齢者や家族の相談を受け、適切な機関・制度・サービスにつないでいきます。
- ・医療機関と居宅サービス事業者などの関係者との連携を強化します。また、看取りのシステムづくりを検討します。
- ・自分自身で権利主張や権利行使することができない状況にある高齢者に対して、権利侵害の予防や対応、権利行使の支援を行います。
- ・高齢者が住み慣れた環境で生活できるよう、家族や関係機関などが情報を共有し、一人ひとりが生きがいを持って生活できるよう支援を行います。

<sup>18</sup> 可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができることを目的とした、地域の包括的な支援・サービス提供体制です。

### 本戦略が「魅力的な地域をつくる」につながる考え方

高齢化が進む中で、町民が将来にわたって安心して暮らすためには、高齢者福祉の充実が必要です。本町は、地域包括支援センターが中心となり、高齢者を支える地域の支え合いの体制づくり（地域包括ケアシステム）を推進していることから、住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりが、魅力的な地域となると考えます。

### 重要評価業績指標（KPI）

指標	参考値	現状値	将来値
	2018(H30)年度	2022(R4)年度	2027(R9)年度
高齢者福祉総合相談者数	357名	419名	460名
ボランティア会員数	160名	148名	200名

### 基本事業名

介護予防・日常生活支援総合事業
総合相談支援
包括的・継続的ケアマネジメント支援
介護予防支援・介護予防ケアマネジメント
認知症施策の推進
権利擁護業務
在宅医療・介護との連携の推進
生活支援サービス体制の整備
居宅介護支援

## 戦略19 【地域福祉】誰もが地域で安心して暮らせる地域福祉活動を進めます。

### 現状と課題

#### (現状)

- ・生活課題を抱えながらも相談する相手がなく、また制度の谷間で孤立してしまい「生きづらさ」を感じている人が増えている中、現状の縦割りの制度や組織、支援の仕組みに「支援しづらさ」を感じている人もいます。こうした制度や組織に関する「支援しづらさ」を少しでも改善し、「生きづらさ」を抱える人の生活を支援していくため、重層的支援体制整備事業<sup>19</sup>を実施しています。

#### (課題)

- ・複合・複雑化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制の整備が求められています。

### 施策

#### ○断らない包括的支援体制の整備

- ・相談支援・参加支援・地域づくり支援の3つの事業が連携し一体的に実施することで「断らない包括的な支援体制」を整備します。

#### 本戦略が「魅力的な地域をつくる」につながる考え方

制度や組織に関する「支援しづらさ」を少しでも改善し、「生きづらさ」を抱える人の生活を支援していくことは、あらゆる方が住みやすいまちづくりに直結し、魅力的な地域をつくることにつながると考えます。

### 重要評価業績指標 (KPI)

指標	現状値 2022(R4)年度	将来値 2027(R9)年度
相談支援件数	5件	3件

### 基本事業名

重層的支援体制整備事業

<sup>19</sup> これまでの分野別（高齢者、障がい者、子ども、生活困窮）の相談体制では解決に結びつかない支援ニーズに対応するため、包括的な相談体制を整備する事業です。

## 戦略 20 【学習活動（公民館分館）】地域・学校・家庭の連携・協働の推進による地域の教育力の向上を図ります。

### 現状と課題

#### （現状）

- ・地域教育力の向上や地域コミュニティの基盤強化を図るため、社会教育主事の配置や活躍機会の拡充に向けて取り組んでいます。

#### （課題）

- ・地域・学校・家庭が連携・協働することにより、地域社会との様々な関わりを通じて子どもたちが安心して活動できる居場所づくりや、地域全体で子どもたちを育む学校づくりを推進する必要があります。

### 施策

#### ○コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

- ・地域学校協働活動推進員の効果的な配置や校長の社会教育士の取得支援、ライフアカデミーマイスター<sup>20</sup>制度の活用等により、学校を核としたコミュニティづくりを推進します。

#### 本戦略が「魅力的な地域をつくる」につながる考え方

社会教育主事やライフアカデミーマイスターなどのコーディネーターを中心として社会教育や生涯学習が活発なまちづくりを進めることは、町民が生き生きとした魅力的な地域をつくることにつながります。

### 重要評価業績指標（KPI）

指標	現状値	将来値
	2022(R4)年度	2027(R9)年度
地域学校協働活動実施数	18	20

### 基本事業名

地域学校協働事業

<sup>20</sup> 町民の学びの要請に応じて、個々の内容に応じたお手伝いを行う、町民有志による登録制の「生涯学習指導者」登録制度のことです。

## 戦略 21 【学習活動（高齢者）】生涯学び、活躍できる環境整備を推進します。

### 現状と課題

#### （現状）

- ・高齢化社会が加速するなか、高齢者が生涯健康で充実した生活を送るためのより一層の支援活動が必要となっています。高齢者学級「ヌプカウシ白寿大学」では、体験活動、講座などの学習や実技活動など各々の教養や技術の向上に努めており、その成果は大学祭などの場で公開しています。また、近年では子どもたちとの交流事業を行うなど、多くの高齢者が仲間たちと生きがいを持って活動しています。

#### （課題）

- ・ウェルビーイング<sup>21</sup>の実現のため、人生の各場面で生じる個人や社会の課題の解決につながる学習機会が保障されることが重要です。そのためには、生涯を通して継続的な学びができるよう環境を整備することや、多様な世代への情報提供、学習成果の可視化、仲間とつながりながら学ぶことができる場や機会の充実させることが必要です。

### 施策

#### ○高齢者の生涯学習の推進

- ・高齢者を含め全ての人々が、地域において世代を超えて互いに交流しながら、地域やくらし、各々の生きがいを共に創り高め合う「地域共生社会」の実現を目指します。
- ・高齢者学級「ヌプカウシ白寿大学」により、ニーズに応じた多様な学習・体験機会と生きがいを創出する取り組みを推進します。
- ・多様な技術や経験を有するシニア層が活躍できる環境の整備を図ります。
- ・社会教育施設における高齢者等のデジタルデバイド<sup>22</sup>の解消を図る取り組みを推進します。

#### 本戦略が「魅力的な地域をつくる」につながる考え方

高齢化が一層進む中で、高齢者の学習機会や生きがい、活躍の場を創出することは、高齢者を中心として町民が生き生きとした魅力的な地域をつくることにつながります。

<sup>21</sup> 健康、幸福、福祉などに直訳され、世界保健機関（WHO）では、「肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態」の幸福を意味する言葉として定義しています。

<sup>22</sup> 情報通信技術を使える人と使えない人の間の格差のことです。

## 重要評価業績指標（KPI）

指標	現状値 2022(R4)年度	将来値 2027(R9)年度
ヌプカウシ白寿大学生徒数	40	50

## 基本事業名

高齢者学級事業



## 戦略 22 【芸術文化】生涯学び、活躍できる環境整備を推進します。

### 現状と課題

#### (現状)

- ・生涯学習ボランティア「ライフアカデミーマイスター<sup>23</sup>」は、メンバーの高齢化のほか、多様化する学習ニーズに対応できない状況やPR不足などにより、活動が停滞傾向にあります。

#### (課題)

- ・年齢や障がいの有無に関わらず、生涯を通じて文化芸術を鑑賞したり体験したりすることができる場や機会の充実が必要です。

### 施策

#### ○人材バンクの活用

- ・ライフアカデミーマイスター制度の改善充実、人材の発掘や既存のマイスターの積極的なPR・活用と近隣町人材バンクとの連携を図ります。

#### 本戦略が「魅力的な地域をつくる」につながる考え方

社会教育主事やライフアカデミーマイスターなどのコーディネーターを中心として社会教育や生涯学習が活発なまちづくりを進めることは、町民が生き生きとした魅力的な地域をつくることにつながります。

### 重要評価業績指標（KPI）

指標	現状値	将来値
	2022(R4)年度	2027(R9)年度
人材バンクを活用した事業実施数	2	5

### 基本事業名

ライフアカデミーマイスター事業

<sup>23</sup> 町民の学びの要請に応じて、個々の内容に応じたお手伝いを行う、町民有志による登録制の「生涯学習指導者」登録制度のことです。

**戦略 23 【防災】地域住民への広報活動などにより災害の未然防止と被害の軽減に努めるとともに、各関係機関などと連携して、各種訓練や通信施設の維持改善を進めます。**

**現状と課題**

**(現状)**

- ・鹿追町の地理的特性から、これまでも多くの風雪害や台風による水害、地震などの災害が発生しています。

**(課題)**

- ・災害予防、災害応急対策及び災害復旧の対策を実施するため、防災関係機関がその機能を十分発揮できるよう万全の体制が必要です。

**施策**

**○防災意識の普及と防災体制の充実強化**

- ・防災のしおりやハザードマップ、広報紙などにより、停電、断水、火災や風雪害、水害、地震などの自然災害に対する意識の高揚に努めます。
- ・各行政区での防災教室及び訓練や、防災・防火フェスティバルしかおいなど総合防災訓練の開催を検討します。
- ・各関係機関などとの各種防災訓練などを実施し、災害時の被害を最小限に食い止めるよう、防災体制や災害時対応体制の充実強化に努めます。

**本戦略が「魅力的な地域をつくる」につながる考え方**

全国的に自然災害が多発、甚大化し、防災に対する意識と安心安全な暮らしを求める思いが高まる中、防災体制などをさらに強化することで、居住地域としての魅力を高めることにつながると考えます。

**重要評価業績指標 (KPI)**

指標	参考値 2018(H30)年度	現状値 2022(R4)年度	将来値 2027(R9)年度
行政区の防災訓練	0 行政区	5 行政区	5 行政区

**基本事業名**

防災意識の普及啓発事業
防災体制の充実強化事業
防災計画、国民保護計画の策定及び見直し事業

## 戦略 24 【コミュニティ】町民と行政の間で情報交流がしやすいように様々な機会を設置し、町民の意見や要望を活かしたまちづくりを進めます。

### 現状と課題

#### （現状）

- ・町の取り組みやイベントなどの行政情報のほか、緊急時に迅速に情報提供ができるように、鹿追お知らせメール（メール、SNS、お知らせアプリ「m i s h i k a（ミジカ）」）を導入しています。
- ・本町では町民と行政が情報を共有し、お互いに連携・協力しながら理解と信頼を深めるために「地域マネージャー制度<sup>24</sup>」や「やまびこメール<sup>25</sup>」などを実施しています。
- ・鹿追町まちづくり基本条例に基づき老若男女を問わず誰もが参加できるまちづくりを進めています。

#### （課題）

- ・各種審議会などへの町民参加がしやすい環境が求められています。
- ・行政からの情報を得る機会の拡大が求められています。
- ・協働のまちづくりを進めるうえで町内会活動などの活性化が求められています。

### 施策

#### ①町民の町政参加機会の拡充

- ・各種審議会委員などを公募や無作為抽出などの手法により選出し、町民誰もが町政に参画しやすい環境づくりに努めます。

#### ②広報広聴活動の拡充

- ・毎月発行している広報しかおいやホームページなどによる情報発信のほか、鹿追お知らせメールをはじめ SNS などにより情報の発信・共有に努めます。また、「やまびこメール」や「地域マネージャー制度」「ふれあいトーク」など誰もが参加し、まちづくりの意見交換ができる環境づくりに努めます。

#### ③住民自治組織の育成

- ・町内会のあり方や活性化のための研修会や講演会などを開催し、それぞれの地域が持つ特性や特色を生かして、地域の課題を地域みんなの力で解決できる組織の育成に努めます。

<sup>24</sup> 町政に対して、日ごろから感じていること（提言・要望・苦情・照会など）を町民から広くメールなどで聞く制度です。

<sup>25</sup> 行政区の例会に町職員が出向き、積極的な行政情報の提供を図るとともに、地域の課題解決を町民と行政共に解決していこうという制度です。

### 本戦略が「魅力的な地域をつくる」につながる考え方

住民自治組織である「町内会」を支援することで、町民が主役の町づくりを推進するほか、地域の垣根を越えて交流できる町民参加の機会を創出することで、多様な主体が連携して身近な課題を解決し、地域の価値を高める「地域力」が高まり、魅力的な地域をつくることにつながると考えます。

### 重要評価業績指標（KPI）

指標	参考値 2018(H30)年度	現状値 2022(R4)年度	将来値 2027(R9)年度
無作為抽出による会議などへの毎年参加件数	－	0 件	1 件
ふれあいトークへの参加人数	－	56 人	300 人
行政区支援事業への参加数	24 行政区	8 行政区	35 行政区

### 基本事業名

町民の町政参加状況の把握
町民との交流の場形成事業
住民自治組織支援事業

**戦略 25 【財政運営】中長期的な「公共施設等総合管理計画」や「個別施設計画」、「行財政改革大綱」、「財政計画」に基づき、効率的な行政執行と健全な財政運営を維持します。**

**現状と課題**

**(現状)**

- ・健全な財政運営と豊かで快適な生活をめざすため、積極的に事業展開を推進する一方、経常的経費や公共事業のコスト削減に努め、財政基盤の強化として新たな財源の創出に取り組んでいます。
- ・毎年度の予算編成方針に基づき、事務事業の見直しや経常的経費の節減などに取り組む、現状ではおおむね適正な財政状況を維持しています。
- ・財務会計システムの導入により予算編成、予算執行の事務の合理化を図っています。

**(課題)**

- ・自主財源が乏しいため、計画的に財政運営の健全化に向けた取り組みを進める必要があります。

**施策**

**○行財政改革の推進**

- ・新たな「鹿追町行財政改革大綱」により、将来を展望した行財政改革の推進を図ります。

**本戦略が「魅力的な地域をつくる」につながる考え方**

町民が将来にわたって安心して暮らすためには「持続可能な」行財政基盤の確立が必須です。町民のニーズに応じた「選択と集中」により、あらゆる効率化を図ることで、時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、財政的に安定し持続可能な魅力的な地域をつくることにつながると考えます。

**重要評価業績指標 (KPI)**

指標	参考値 2018(H30)年度	現状値 2022(R4)年度	将来値 2027(R9)年度
行財政改革による経常的経費の削減効果 (年間)	-	150,754 千円	100,000 千円

**基本事業名**

行財政改革大綱の見直し

行財政改革推進本部・審議会事業